

下野市 初

若者 × 移住 × まちおこし

地域おこし協力隊が着任しました

地域おこし協力隊とは？

都市部に住む人の中には、「都会を離れて地方で生活がしたい」、「自然と共存したい」、「地域とのつながりを大切にしたい」など、様々な理由で地方での生活に注目をしている人が多くいます。

地域おこし協力隊は、そのような都市部の人たちを、人口減少や高齢化が進む地方に積極的に迎え入れ、地域の課題解決に向けた活動に従事してもらいながら、その地域への定住を図ることで、地域の活性化につなげていくことを目的とした国の制度です。任期は、最長3年間です。

総務省によると、平成29年度には、全国997の自治体で4,976人の隊員が活動し、これまでに任期が終了した隊員の約6割が同じ地域に定住をしています。

現在、県内でも多くの市町が導入し、約70人の隊員が活動を行っています。

地域おこし協力隊導入による効果

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を生かした活動
- 自分の理想とする暮らしや生きがいの発見

地域

- 新鮮な視点（「ヨソモノ」「ワカモノ」の視点）
- 隊員の熱意と行動力が地域に大きな刺激を与える

地方自治体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 地域住民が増えることによる地域の活性化

地域おこし協力隊が新しい視点で地域を元気に！

地域おこし協力隊を受け入れることで、地域に新しい視点が入るだけでなく、隊員の熱意と活動が地域に刺激を与えることにつながります。また、隊員本人にとっては、これまで培ってきた能力を生かした活動に取り組みながら、理想とする地方での暮らしや生きがいを発見することができます。

受け入れる自治体では、定住を目指す若者が移住することに加え、隊員の活動を通してその地域を知り、興味をもって観光に来る人や移住する人がさらに増えることが期待されています。

隊員の受け入れをきっかけに、地域、隊員、行政が手を携え、まちおこしを進めていきます。

2名の方が地域おこし協力隊として着任しました

市では、平成30年度から地域の活性化、人口減少対策の一環として、地域おこし協力隊制度を導入し、2名の隊員の募集を行いました。

その結果、3月1日に宇佐美慈さんに、4月1日に大坪亜紀子さんに下野市地域おこし協力隊を委嘱しました。本市では初めてとなる隊員です。

2人は、それぞれの活動拠点を中心に、各団体や地域の方々と協力しながら市内全域で活動を行っていきます。隊員の活動の様子は、市のホームページやソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）で情報発信を行っていく予定です。

今後の2人の活躍に、ご期待ください。

- 問い合わせ先
総合政策課
☎(32)8886

下野市に着任した
2名の隊員を紹介
します

